

活動テーマ

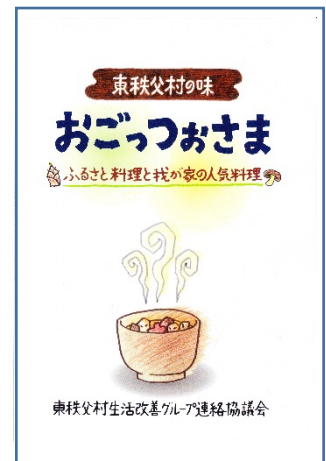
東秩父村中山間地域の暮らし（食、慣習、自然風土）を通じた交流の創造

東秩父村白石皆谷地区 大東文化大学

### 1 活動目的

東秩父村には山や川などの豊かな自然資源が豊富にあり、昔から人々は自然の恵みを生活に活かしながら共存して暮らしてきた歴史がある。間近で体感した地域の味や自然を活かす知恵は記録として残されているものは少なく、若年層の人口流出により各家でも受け継ぐ人が減少しているという現状がある。

- (1) 15年前に発行された郷土料理本「おごっつおさま—ふるさと料理と我が家の人気料理—」(H14.3 発行)の新しいまなざし(学生と地域の方々)からの復刻版を製作。参考資料参照。
- (2) 「和紙の里」や農協販売所などでの伝統食を新しくアレンジしたお弁当などの販売。
- (3) 東秩父村の既存の資源を活かして、観光として提供できる形に整えていく。
- (4) 地域の生活に重要な「山菜取り」や「キノコ作り」を支援し学ぶ。



### 2 活動地域の現状

埼玉県唯一の村東秩父村は、埼玉県西部に位置し約8割を山林に囲まれた人口約3000人に満たない小さな山村集落である。この地域で盛んに行われている和紙漉きは約1300年の歴史があると言われており、平成26年には細川紙という和紙の製作技術がユネスコ無形文化遺産に登録された。平成26年の消滅可能性都市ランキング(日本創成会議)では県内1位であり、現在の高齢化率は37.5%(H29.3)で、県内で最も過疎化が進んでいる地域の1つといえる。

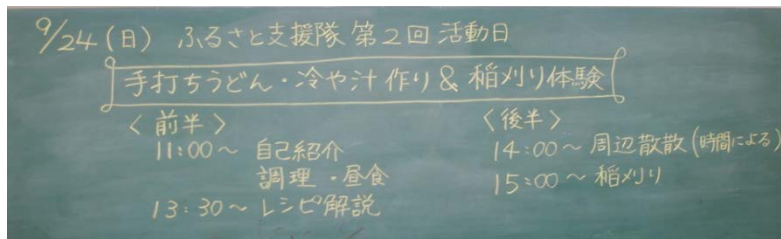


### 3 活動内容

- (1) 東秩父村の生活、暮らし、慣習などを学ぶための交流会の実施(7月)



(2) 手打ちうどん作り・稲刈りを支援し体験 (9月)



(3) 郷土料理の「柚子巻き」などの保存食作りを学び、手伝う (12月)

(4) 小正月行事の「けずりばな」製作を学び手伝う (1月)



#### 4 成果

- (1) 自給自足の生活文化が深く浸透していることに新鮮な驚きを感じるとともに、行き過ぎた都市生活を見直すことの必要性を感じたという学生が少なくなかった。
- (2) 村の生活文化を大事にしている人々から「郷土料理」や郷土の民俗に関する十分な聞き取りを行うことができた。
- (3) 留学生（ベトナム、マレーシア、中国）の積極的な参加が見られ、支援隊活動が期せずして中山間地域における国際交流の場となった。

#### 5 課題

- (1) 学生の参加者数を増やすための方策を検討する必要がある。
- (2) 留学生の積極的な参加を活用して、細川紙他の観光資源の開発にも取り組む。
- (3) 本活動の最終目標は郷土料理本「おごっつおさまーふるさと料理と我が家の人気料理」の増補復刻であるが、そのための費用(500部印刷で50万円前後になる見通し)をどう捻出するかが問題である。

#### 6 次年度以降の計画

今年度に学び体験した東秩父村の生活と暮らしと技術などを活かし、実際に生産活動に目標をおく。

- (1) 東秩父村の「めぐみや幸」を使った、新しい調理法やメニューを開発する。
- (2) キノコ作りを指導してもらい、実際に生産を行う。
- (3) 東秩父村の観光資源(食、自然、風土など)の開発を検討する。
- (4) 郷土料理本「おごっつおさまーふるさと料理と我が家の人気料理」の復刻版の制作に着手する。

以上